

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

上顎軽度フラビーガム症例への対応 —サーパスGシリーズ使用例—



東京都開業 阿部歯科医院
歯科医師
阿部二郎

はじめに

上顎フラビーガム症例に対し通常の印象方法で対応しても、前歯部顎堤粘膜がコンニャク状で柔らかいために、噛みあわせると義歯が上前方に動いて落下してしまう。この問題を解決するためには咬合時に義歯ができるだけ動かないように工夫する必要がある。

具体的処置として、

1. 上顎前歯部の義歯床縁を厚く印象する(口輪部によるサポート)

2. 咬合時に口蓋部の硬い組織に力が加わるようにする

3. いかなくとも前歯部で咬合させないが挙げられる。

しかし、たとえ動きの少ない義歯を装着したとしてもフラビーガムは炎症性の組織であるため、刺激を加え続けると顎堤吸収を伴いながら悪化していく。顎堤吸収を防ぎ、義歯の継続的な安定を得るためには、フラビーガム部の炎症を取り

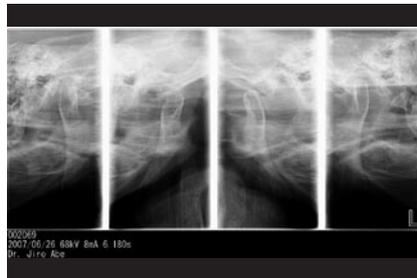
除き比較的硬い組織に変えることも忘れてはならない。

実際の臨床では、フラビー前壁部のみを義歯内面と接触させ、折れ込んでいるフラビー部を後方へ押し起こす。さらに、咬合時の刺激を取り除くことで炎症は取り除かれていく。

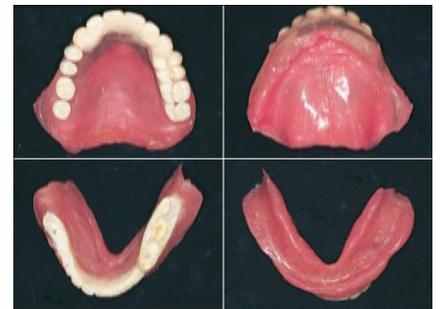
今回は、サーパスGシリーズを使ったフラビーガム対応法について報告する。



1 患者：80歳男性。
パノラマ所見：上顎顎堤の著しい吸収と、右下4に残根が認められる(プロマックスにて撮影)。



2 TMJレントゲン：顎関節の構造に大きな問題はない。また、開口時の左右の運動障害も認められない(プロマックスにて撮影)。



3 主訴：上下義歯が不安定。
旧義歯の状態：弾性裏装材を使った不適合な義歯で咬合面が即時重合レジンで修正されている。



4 吸収した上顎顎堤(正面観)：口角鉤で広げても上顎顎堤がまったく見えない。



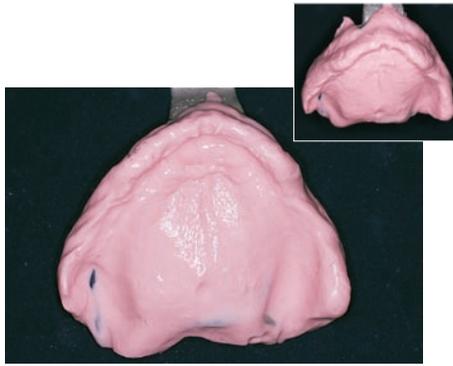
5 所見：上顎顎堤にフラビーガムが認められる。



6 フラビーガム部をストッパーで押すとコンニャク状組織であることがわかる。



7 下顎顎堤形態は良好：右下4に残根が認められるが、昨年心筋梗塞の手術を行っているため、残根上義歯で対応することにした。



8 上顎のスナップ印象：できるだけ圧をかけないように印象した（アローマファイン使用）。



9 下顎スナップ印象：下顎総義歯の吸着を得る目的で枠なしトレーを使用（アローマファイン使用）。



10 模型上で、フラビーガム部を十分にリリースする（ジーシー社製パラフィンワックス使用）。

*上顎印象用各個トレーを製作：（オストロンII使用）
*下顎印象用各個トレーを製作：下顎総義歯吸着印象のための工夫が付与されている。



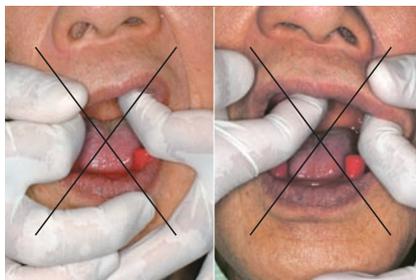
11 暫間的な咬合採得の完了。



12 フラビーガム部の十分なスペースを確認（フィットチェッカー使用）。



13 フラビーガムを後方へ押し、立ち上がらせる：イソコンパウンドをフラビーガム唇側部に盛り、各個トレーを前方から後方へ押すようにするのがコツ。



14 精密印象前の注意事項
上顎顎堤吸収の著しい患者の上顎口唇部の活動は弱まっていることが多いので術者が強く口唇や頬を動かさずに印象を採る：口輪部によるサポートを期待する。



15 実際の印象：患者に口を尖らせ口角を横に引かせた後、術者が上顎口唇部を軽く引き下げ、術者の指を吸引させる。そうすることでモダイオラスが強調され、唇側部が厚く辺縁形成される。



16 一次印象：厚みのある辺縁形成が完了（エクザデンチャーボーダータイプを使用）。



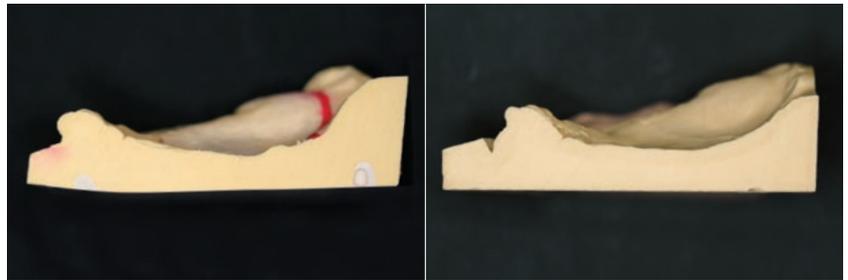
17 顎堤部に拡大された余剰印象材および小帯部のシリコン印象材を丁寧に除去。フラビー部の印象圧を逃がすため大きな目の穴を開ける。



18 最終精密印象：フローの良いエクザハイフレックス インジェクションタイプで印象を採る。
注意：フラビーガムのコンニャク状組織の状況が著しく悪い場合はフラビーガム相当部に窓あけをして、無圧にて印象を行う。



19 イソコンパウンドを使って口腔内で直接ポストダムを作る。



20 フラビーガム部立ち上げのスナップ印象時の模型比較。左：スナップ印象時。右：イソコンパウンドにてフラビー部を立ち上げた精密印象時。

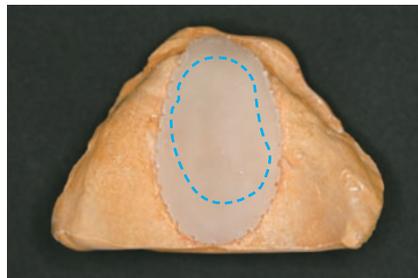


21 下顎総義歯の吸着印象。下顎総義歯の吸着を達成するためには、良い材料を使って印象を採ることも大切ではあるが、吸着の原理を理解することがもっとも重要である。エクザデンチャーボーダータイプを使って、5つの機能運動を行う。

①ウーツ。②イーーツ。③舌で上唇をなめる。④舌で下顎トレーの後ろを押す。⑤嚥下。



22 エクザデンチャーにて最終印象を行う。



23 通常の顎堤ではリリースする口蓋部は、フラビーガムにとって力の受け止められる大切な場所である。口蓋部はリリースせず、加熱重合型弾性裏装材にて口蓋部を作製し、硬組織の範囲に合わせてカットする。



24 人工歯選択：前白歯ともサーパスGシリーズを使用。前歯形態にはGS(Strong：力強い)、GU(Universal：標準)、GE(Elegant：やさしい)の3種類があるが、患者は端正な顔立ちの紳士であったのでGUを選択した。



25 人工歯排列(正面観)：以前はサーパスP形態を使用することが多かったが、Gシリーズはさらに天然歯らしい形態とエナメル質の浸透性を有している。また、臼歯部への歯頸線の移行も自然であり審美性も向上している。



26 上顎人工歯排列：天然歯が元あった位置に排列して口腔内で転覆試験を行うと義歯は落下するため、小白歯は歯槽頂に近づけたやや内側に排列。ケースによって臨機応変に対応する術者の臨床能力が必要。



27 下顎人工歯排列：下顎臼歯は、顎堤のほぼ中央に排列。



28 上下顎前歯部のオーバーバイトは1mmであるが、前歯部での咬合習慣を排除する目的で意図的にオーバージェットを3mmにした。ケースによってはもっとスペースを取る必要がある。



29 透明重合用レジン(アクロンNo.5 クリアー)にて重合後、リマウントにて調整(患者がガミスマイルでないことが透明レジンの使用条件となる)。



30 しばらく使用していると上顎義歯の後縁封鎖が甘くなる。そのときは、口腔内でレベアジン(クリアー)を追加修正する。

サーバスGシリーズ(前歯はGU(ユニバーサル形態)を使用)

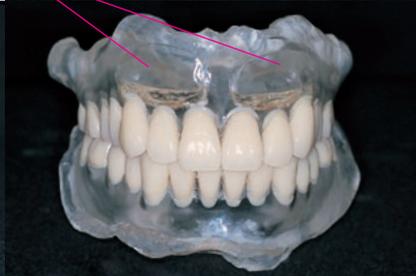
上顎義歯の軽量化のため
内部のレジン12gを取り除き
外部から蓋をした

前咬み習慣を取り除くため
通常のオーバージェットよりも
大きく与える
(このケースのOver Jetは3mm)



上顎臼歯は転覆試験の結果、
やや歯槽頂寄りに配列

頬側咬頭の空きの少ない
リンガライズドオクルージョン
サーバスGシリーズの臼歯の結果、
やや歯槽頂寄りに排列



義歯床でレトロモラーパッド部の
ほぼ全体を薄く被う

頬粘膜がレトロモラーパッド上で
舌側に向かって入っていく状態を
阻害しないように、
第2第臼歯の代わりとして小臼歯を使用し、
さらに頬側遠心咬頭を斜めに削り落とす



「染谷のスジ」に相当する部分を削合

レトロモラーパッド前方頬側研磨面に
凹形態を与える

下顎臼歯は顎堤の幅の中央に排列

上顎結節とレトロモラーパッド部の距離は
最低でも3~5mm必要
(術者による正しい咬合高径の採得が重要)

フラビーガム症例の前歯部義歯床縁は
意図的に厚くする

硬口蓋部を利用するため
加熱重合型弾性裏装材を使用

イソコンパウンドを用いて
口腔内で作ったポストダム

閉口機能印象を中心とした
吸着印象テクニックにより
後顎舌骨筋窩部の義歯床縁は
薄くなる

舌下ヒダ部の
義歯床縁は厚くなる



舌が正しいポジションに
収まるためには
充分な舌房の確保が必要



舌根部の義歯床舌側研磨面への収まりを
良くするために凹形態を付与



31 術後